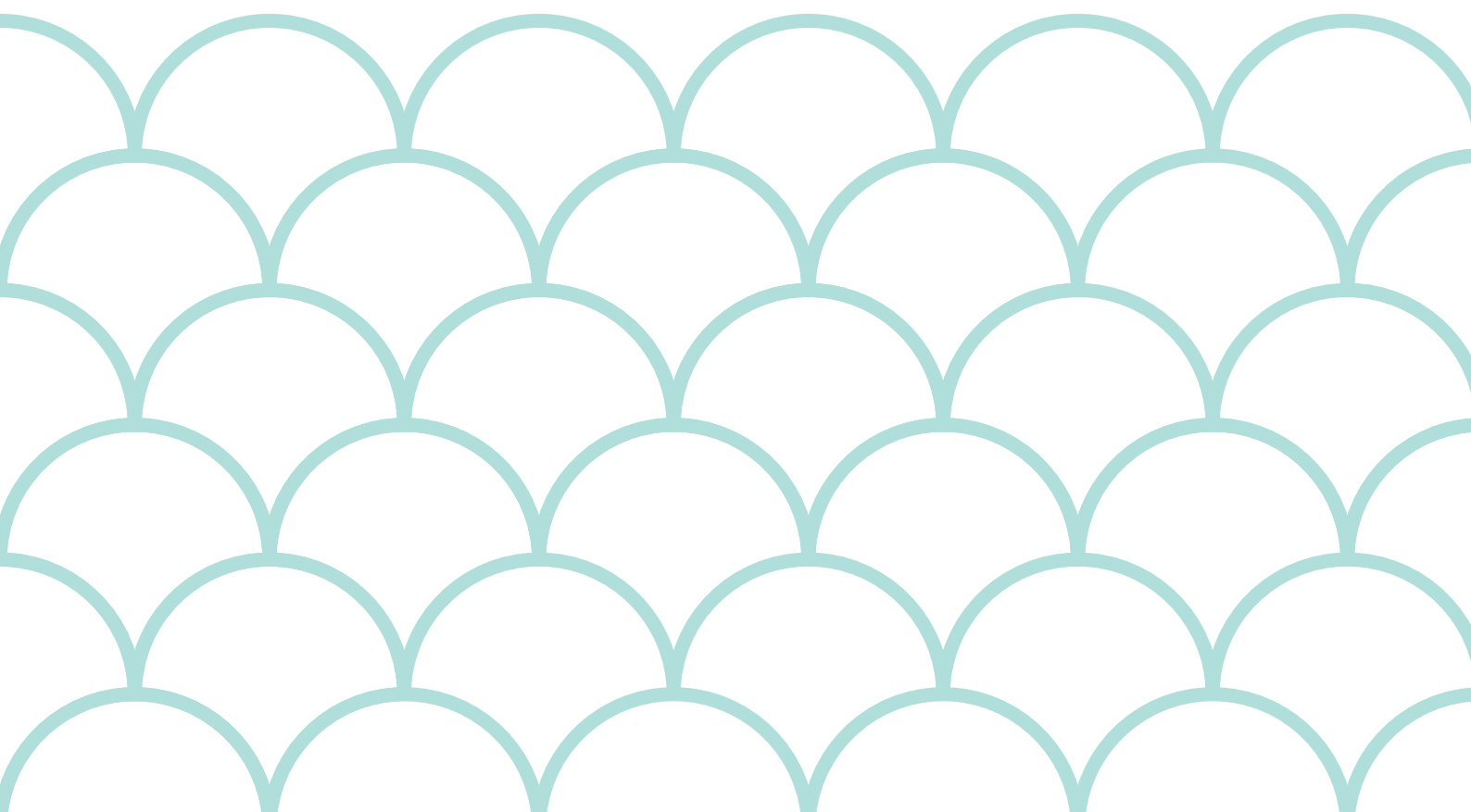


横浜市立大学基金 2024年度 活動報告



平素より格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

急速な少子高齢化の進行や物価高により、大学・病院を取り巻く状況は変化し、本学の経営状況はますます厳しい状況が続いています。自律的かつ持続可能な法人経営を実現し、YCUミッションのもと教育、研究、医療をさらに推進するため、決意をもって改革を進めているところです。このような状況の中、ご寄附をいただいた皆様におかれましては、本学への多大なるご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

本学は、2025年1月に文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）※」に採択されました。J-PEAKS事業の好スタートを切るため、2025年度は大学全体の研究力向上に向けて執行体制を強化するなど大学一丸となって取り組みます。J-PEAKS事業の推進を通じ、地域社会の中核的な研究大学としてイノベーション創出を通じた社会変革を牽引することを目指してまいります。

横浜市をはじめ国内外で貢献し、世界で活躍する優れた人材の育成や、新たな価値創造を目指した研究活動の推進、学生生活やキャンパス環境整備等を実現するためには皆様のお力添えがかかせません。

2028年には、本学は創立100周年を迎えます。市民の誇りとなる大学の存在意義を高め、横浜市民はもとより、広く国際社会に貢献する大学・病院となるよう努めてまいりますので、引き続きのご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2025年9月



近野 真一

SHINICHI KONNO

公立大学法人横浜市立大学
理事長

※地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）：日本全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成のため、地域中核・特色ある研究大学に対し、強みや特色ある研究力を核とした戦略的経営の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要な環境構築の取組を支援する事業

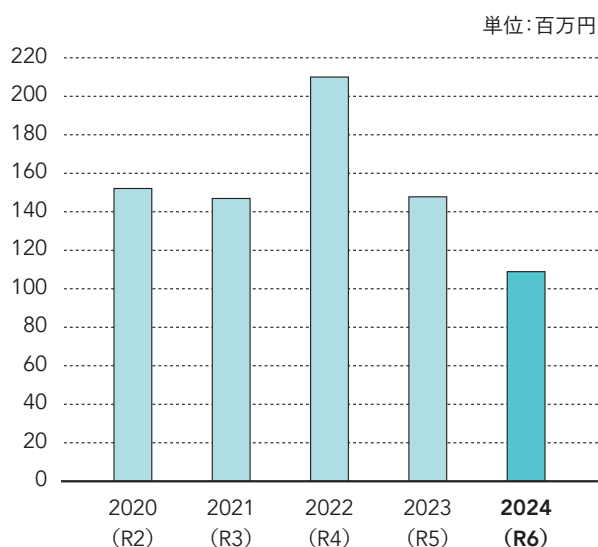
2024年度 実績報告

寄附の件数及び総額

寄附件数	寄附金総額
896件	108,998,750円

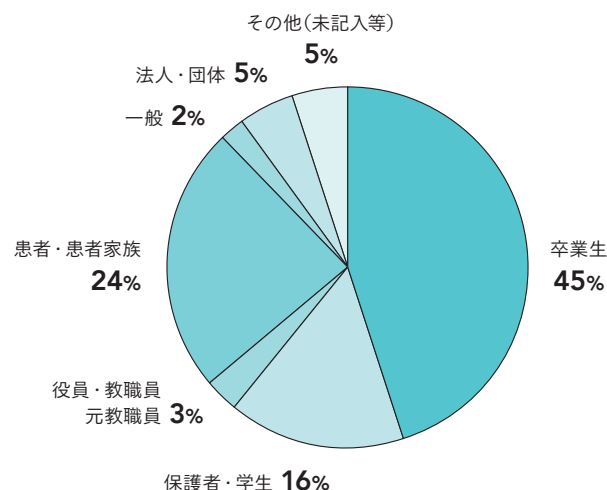
2008年度～2024年度累計：8,407件（1,295,890,124円）

寄附金額推移



寄附者の属性

卒業生からの寄附件数が最も多く、患者・患者家族や保護者をはじめ多くの方々からご支援をいただいています。



内 訳

寄附目的	件 数	寄附金額（円）
創立100周年記念事業	大学に一任（非目的指定寄附）	305
	ビジネス人材育成・留学支援	43
	新たな研究創生	51
	学生生活・環境改善	87
	医学部・病院再整備	127
大学支援	12	40,000
学生支援	17	1,651,000
YCUシミュレーションセンター募金	18	2,995,000
YCU修学支援基金	12	162,000
YCU研究支援基金	4	130,000
先端医学研究センター	2	40,000
学術情報センター	24	5,499,000
附属病院	112	16,013,984
附属市民総合医療センター	82	11,745,296
古本募金	—	334,466
合 計	896	108,998,750

寄附金の活用

使 途	金額（円）
教育・研究支援	29,881,643
医学・医療振興支援	13,437,389
大学支援	47,401,124
学生支援	8,092,929
新型コロナウイルス対策関連	646,740
附属病院	9,766,760
附属市民総合医療センター	5,221,292
合 計	114,447,877

金額には、過年度の寄附金・遺贈を活用したものを含みます。
寄附金の残額は、次年度以降も活用させていただきます。



横浜市立大学全体を支援（非目的指定寄附金）

大学に一任

幅広く大学運営に活用するほか、大学の基金として積み立てて、将来に向け活用します。

寄附の活用例

● 100周年記念事業

100周年記念事業



1 横浜市立大学周年史デジタルアーカイブ

「横浜市立大学周年史」編纂に係る一次資料を保存・管理・公開するため、横浜市立大学周年史デジタルアーカイブを公開しました。金沢八景キャンパスのいちょう並木や時計台、様々な建物・病院の変遷や学生生活の様子など、当時を振り返ることができる貴重な写真や、本学発行の周年事業に関わる発行物等も公開しています。横浜市立大学の歴史にまつわるたくさんの写真や資料を検索・閲覧（一部、非公開あり）いただけますので、ぜひご覧ください。

2 関連制作物

本学の学生・教職員・卒業生・後援者の皆様に本学の魅力を伝え、横浜市立大学100周年に向けた機運醸成のため、さまざまな発行物を作成しました。

● The 100th anniversary is coming! ～もうすぐ100周年 もっとYCUを好きになる～

創立100周年まであと4年と迫った2024年10月、本学の長い歴史を少しでも振り返るためのリーフレットを発行しました！



● みらいにつなぐ市大の歴史

創立の源泉から、思わず誰かに話したくなるトピックスまで、さまざまな歴史を紹介しています。

Column

金沢まつり2024いきいきフェスタ

金沢区民の祭りとして親しまれている金沢まつり2024いきいきフェスタ（2024年10月19日（土）「海の公園」で開催）に横浜市立大学がブース出店しました。ブースでは、100周年記念パネル展示の他、化学実験体験、ヨッチーとの写真撮影などを実施し、100周年記念事業の機運醸成を図りました。





ビジネス人材育成・留学支援プロジェクト

世界に羽ばたくグローバル人材育成

豊かな人間性と高い専門能力を備えた「横浜から世界へ羽ばたく」人材を育成しています。世界で活躍する優れた人材・ビジネスリーダーの輩出を更に推進するため、グローバルな視点から自らの課題をもって海外へチャレンジする学生を広く支援します。

寄附の活用例

- はまぎんGlobalChallengeプログラム
- 海外留学スタート支援事業 (IELTS受験料80名)
- NIコンサルティングチャレンジプログラム
- 卒業生によるアントレプレナー教育支援など

● はまぎんGlobalChallengeプログラム 奨学生の感謝の言葉

「はまぎんGlobal Challengeプログラム」のご支援により、アフリカのガーナで女子教育推進支援に取り組む貴重な機会を得ることができました。渡航後には7校、200人への月経衛生調査をもとに、布ナプキン作り方講座や学校でのトイレの建設を実施するため、クラウドファンディングで140万円以上のご支援も集まりました。この経験の原点は、奨学金によるご支援に他なりません。心より感謝申し上げます。

国際教養学部3年

百瀬 有紗 (ももせ・ありさ) さん



● NIコンサルティングチャレンジ プログラム奨学生の感謝の言葉

NIコンサルティングチャレンジプログラムのご支援により、「アントレプレナーシップの当事者になる」という目標のもと、ビジネスプランコンテストへの挑戦やキャリア体験記の企画・制作に主体的に取り組むことができました。これらの経験を通じて、自ら行動し価値を創出する力を養うことができ、大きな成長を実感しています。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

今後は自らも学びを社会に還元できる存在を目指して、努力を重ねてまいります。

国際商学部4年

小川 敬大 (おがわ・けいた) さん



新たな研究創生プロジェクト

世界に発信する研究の創生と研究者育成

新たな医療、そして横浜のさらなる魅力の創出に向けた研究プロジェクトを展開し、社会に還元するとともに卓越した研究を発信し続ける基盤を築きます。また、この研究プロジェクトを通じて将来を担う優れた研究者を育成するとともに、若手研究者のキャリア教育支援の一層の充実を図ります。

寄附の活用例

- 次世代研究者挑戦的研究プログラム
- 大学院都市社会文化研究科主催シリーズ企画

● 「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の支援を受けた学生の感謝の言葉

私は経済学の理論的予測が現実と整合的かを検証するために、ビッグデータを用いた分析を進めて参りました。博士課程在籍時にSPRING事業から多大なるご支援を賜りました。研究活動に専念できただけでなく、他学部との交流を通じて新たな視点を得ることができたのは、ひとえにご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。これまでの経験を糧に、今後も一層精進してまいります。

国際マネジメント研究科
博士後期課程3年

丹後 健人
(たんご・けん) さん





学生生活・環境改善プロジェクト

学生のための環境整備

学生が発想豊かに学び、伸び伸びとキャンパスライフを送るための環境づくりを進めます。学修スペースや学生交流室などの設置や、老朽化した施設の更新や修繕等に活用します。

寄附の活用例

- 課外活動支援
- 老朽施設の更新

● ご支援いただいた

ヨット部の学生からの感謝の言葉

私たちヨット部は活動基盤強化のため、OB・OGの方を中心にご寄付のお願いをいたしました。多くの方から温かい応援のお言葉と共にご支援をいただきました。ご寄付をくださった方々のおかげで、部員たちが目標に向かって練習に励むことができています。本当にありがとうございました。目標である全日本出場を達成し、応援してくださる皆様のご期待に応えられるよう、これからも邁進して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

ヨット部主将 奥平 夏生（おくひら・なお）さん



● 福浦キャンパス食堂 製氷機の購入

食堂の製氷機が老朽化のため製氷が不可能な状態でした。食堂の運営に大きな影響を及ぼしていたため、新規購入しました。



医学部・病院再整備プロジェクト

附属2病院と医学部、医学研究施設などの再整備

医学部・病院再整備に向けて「最高水準の医療・医学研究・人材育成拠点へ～横浜の丘からみらいへ発信し続ける大学～」というビジョンを掲げました。将来にわたって横浜の医療発展の拠点となることを目指します。

寄附の活用例

- 海外の先進的な大学・病院等の事例調査

● 主な用途（再整備事業計画の進捗により変更の可能性があります。）



医療者・研究者の育成

最先端のシミュレーションセンターを設置し、優秀な人材を育成します。また、育児等で臨床を離れた医師・看護師の職場復帰支援など、生涯を通じて支援します。



地域医療の人材交流拠点

地域全体の医療の質向上に向け、地域の医療関係者が集えるよう、学会開催を想定したホールやカンファレンスルーム等を設置します。また市民向けの医療講座等にも活用します。



横浜医療の歴史資料館

日本でいち早く西洋医療を取り入れた横浜医療の歴史を学べるエリアを設置し、学生をはじめ多くの市民に開放します。

YCUシミュレーションセンター募金

シミュレーションセンターは、福浦キャンパス内にあるシミュレータを用いて卒前・卒後・生涯教育を行うための施設です。学生（医学科・看護学科・大学院生）、研修医、看護師などが、日々、安全で質の高い医療を提供するための訓練をしています。寄附金は高性能シミュレータの購入やセンターの整備、改修等に充当し、利用者が主体的に学び、臨床技術を磨くための環境を整えます。

○ シミュレーションセンター長からの感謝の言葉

2021年度より血管内治療シミュレータ導入を目標に募金活動を始めましたが、この度、多くの皆様のご支援により導入することができました。このシミュレータは循環器内科、脳神経外科、放射線診断学、消化器内科など多くの科で行われている血管内治療や診断の手技を学ぶことが出来ます。医師はもちろんですが、初期研修医や医学生まで多くの方々のトレーニングに活用してまいります。ご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

シミュレーションセンター長 秋山 浩利（あきやま・ひろとし）

シミュレーションセンター
紹介動画



YCU修学支援基金

税額控除対象

意欲と能力があるにも関わらず、経済的理由により修学が困難な学生を支援し、教育を受けられる環境を整えるための基金です。2024年度は経済的困窮度の高い1年生74名に入学時にかかる施設整備費相当額を支給しました。



寄附の活用例

- 入学金または授業料の免除及びその他学生の経済的負担の軽減を図る事業
- 学生への奨学金支給
- 教育上の必要があると認めた学生等による海外への留学に係る費用の支援
- リサーチ・アシスタント及びティーチング・アシスタントに係る経費の支援

YCU研究支援基金

税額控除対象

学生や不安定な雇用状態にある研究者が安心して研究に専念できる環境を整備するための基金です。

寄附の活用例

- 研究活動に要する費用
- 他の研究者との交流促進にかかる費用
- 研究活動の成果を発表するために必要な費用（学会参加、旅費など）

YCU修学支援基金・YCU研究支援基金への寄附は「税額控除」の適用対象となります。

横浜市立大学へのご寄附は税制上の優遇措置が適用されます。中でもYCU修学支援基金・YCU研究支援基金への個人の方からのご寄附については、「所得控除」に加え「税額控除」の適用対象となります。確定申告の際に、いずれかの制度をお選びいただけます。詳しくは12ページをご覧ください。

附属病院

福浦キャンパスの医学部に隣接する附属病院は、横浜市唯一の「特定機能病院」であり、大学病院としての高度な医療機能を有しています。教育・研究・診療の三位一体の体制で、377万人の横浜市民の医療の最後の砦として安全かつ高度な医療を提供しています。さらに、附属市民総合医療センターと協同して多くの実習生や臨床研修医を受け入れています。

寄附の活用例

- 救急車の購入
- 災害用衛星アンテナの購入
- 見守り支援システム・研究機器の購入



横浜市金沢区

● 寄附者のメッセージ

家族ががん治療でお世話になりました。がん治療の研究にお使いいただきたく思います。大変お世話になりました。有難うございます。

家族がいろいろな治療をして頂き、心のケア等も行っていました。先生には本人も感謝の気持ちを常日頃言っていました。市大病院に4年10ヶ月お世話になり、最後まで痛いという言葉を一言もなく静かに旅立ちました。心ばかりですが少しでも役立てていただけたらと思ってご寄附させて頂きました。ありがとうございました。

家族の命を救っていただきました。心よりお礼申し上げます。些少ですがお役立ていただければ幸いです。

災害に強い病院づくり

1 救急車の購入

新型コロナウイルス流行時、感染症診療と一般診療の両立が困難となり、病床が非常にひっ迫しました。そこで、感染症流行時において、急性期治療がひと段落した患者さんを連携病院等へ速やかに搬送することで、限られた病床を有効活用できるよう、救急車を購入しました。また、災害発生時には、当院のDMAT（災害派遣医療チーム）が被災地で医療支援活動する際にも活用します。



● 医師からの御礼のメッセージ

当院では災害医療にも積極的に取り組んでいます。2024年1月発災の能登地震では珠州市の現場へ当院DMATを派遣しました。次の災害時には、この救急車が被災地で活躍してくれると思います！

救急科部長 竹内 一郎（たけうち・いちろう）

2 災害用衛星アンテナの購入

皆様のご寄附により、災害時でもインターネット・電話が可能となる衛星アンテナを購入いたしました。これにより、災害時でも迅速かつ確実に情報を収集し、患者さん、ご家族、医療スタッフに安心を提供することができます。また、当院は災害拠点病院として、地域の医療機関や福祉施設を支援し、重症患者さんを受け入れるなど、地域において中心的な役割を果たしています。今回の寄附により、災害時の情報収集能力が強化され、地域全体の医療提供体制の向上に寄与することができます。



総務課からの御礼のメッセージ

令和6年に発生した能登半島地震では、通信インフラが大きな被害を受け、携帯電話・固定電話・インターネットの使用に支障が生じました。災害時に医療を適切に提供するためには、外部との通信手段の確保が何よりも重要です。このたび、皆さまからの温かいご寄附により、災害用衛星アンテナを導入することができました。これにより、非常時にも安定した通信環境を維持できる体制が整い、患者さんや地域の皆さまの安全に、これまで以上に貢献できるものと確信しております。心より感謝申し上げます。

総務課課長 友田 安政（ともだ・やすまさ）

療養環境整備、業務負担軽減に向けた取組に活用

2病棟の全ベットに「見守り支援システム（眠リスクキャン）」を整備し、呼吸、心拍、睡眠状態を継続的に把握することができるようになりました。安全な療養環境整備と睡眠状況に合わせた看護提供に活用しています。



看護師からの御礼のメッセージ

この度はご寄附をいただき、心より感謝申し上げます。ご厚意により、患者さんが快適かつ安全に療養できる環境づくりを進めるため、『見守り支援システム（眠リスクキャン）』を導入することができました。このシステムを通じて、患者さんの状態をより細やかに把握し、一人ひとりに合ったタイミングで適切なケアを提供できる体制を整えるとともに、夜勤時の看護師の業務負担軽減に向けた取組に活用させていただいております。今後も患者さんに寄り添い、安心して療養いただける環境づくりに努めてまいります。

副病院長・看護部長 鈴木 久美子（すずき・くみこ）

研究機器の購入

ご寄附で購入した卓上アスピレーターは、呼吸器病学教室の研究活動において、実験で頻繁に行う検体の上澄みの吸引などの作業に活用しております。購入したものは実験台の卓上に置けるコンパクトサイズで、様々な機材で手狭になっている当実験室でも扱いやすく大変助かっております。



医師からの御礼のメッセージ

この度は呼吸器病学教室（呼吸器内科）にご寄附をいただきまして、誠にありがとうございました。いただいたご寄附で、卓上アスピレーターを購入いたしました。当教室で行っている研究を、本機材を使用しながら進めてまいりたいと思います。

呼吸器病学（呼吸器内科） 久保 創介（くぼ・そうすけ）

附属市民総合医療センター

附属市民総合医療センターは、市民の生活に密着した医療機関であると同時に市内唯一の高度救命救急センターを有する三次救急医療の拠点でもあります。附属病院とともに高度で先進的な医療や合併症など集学的治療を必要とする症例の受入れを進め、横浜市の医療の充実に貢献しています。

寄附の活用例

- スマイルタッチ導入
- 飛沫防止パネル取付型双方向会話アシストシステム導入
- 関連学会への参加費用など

○ 寄附者のメッセージ

過去には腹部動脈瘤手術でお世話になりました。今回、大腿骨骨折で入院、手術となりました。医師、看護師、スタッフの皆様には大変献身的に看護いただき、心から感謝しております。お手数をおかけしました。ありがとうございました。

入院中、手術中大勢の方に大変お世話になりました。そのお礼として病院、学生さんに少しでもお役に立てばと思い寄附させていただきます。

病気でお世話になりました。皆様がとてもいい方で一生懸命にやってくださりましたので、少しでも協力させていただこうと思ひまして寄附させていただきました。よろしくお願いいたします。

スタッフの皆様のご親切や笑顔にはげまされました。



横浜市内南区

スマイルタッチの導入

活用先として小児総合医療センターを指定してくださった寄附金を用いて「スマイルタッチ（小児患者の診療に対する恐怖心を和らげる効果のある診療支援ツール）」のレンタルを継続しています。

○ 医師からの御礼のメッセージ

この度は、小児総合医療センターにご寄附を頂き、誠にありがとうございました。スマイルタッチは小児医療、特にプレパレーションに有用な診療支援ツールです。

プレパレーションとは、こどもが検査や処置、治療を受けるのに際して恐怖や不安をできる限り軽減するために行う説明や支援のことをいいます。大人と違って言葉だけの説明では十分に理解を得ることが難しいですが、画像を併用することでより理解が得やすくなります。採血や点滴などの処置に際して、事前に映像を見てこれからすることを理解することで恐怖や不安をやわらげたり、また処置の最中にはショートアニメーションなどで恐怖感を軽減することもできます。本機器は1年ごとのレンタル契約になっており、都度内容も更新されます。ご寄附を頂いたことを契機に契約を開始しましたが、現場での必要性は高く、以降、毎年途切れることなく更新を続けており、小児科処置室でこどもたちの力強い味方になっています。



小児総合医療センター部長 志賀 健太郎（しが・けんたろう）

飛沫防止パネル取付型 双方向会話アシストシステムの導入

院内感染対策の一環として、各種窓口を設置している飛沫防止パネルにそのまま取り付け可能な双方向会話アシストシステムを、寄附金を活用し導入しました。

○ 医事課からの御礼のメッセージ

この度は、当院へご寄附をいただきありがとうございます。お寄せいただいた寄附金により、受付窓口のパーティションに設置する、双方向会話アシストマイクを購入させていただきました。

当院では、院内の感染対策として、受付窓口パーティションを設置しておりますが、声が聞き取りにくい、説明が正確に伝わりにくい等の課題がありました。このマイクの導入によって、パネル越しの会話がよりスムーズになり、患者さん、職員ともに快適な環境づくりに役立てることができました。

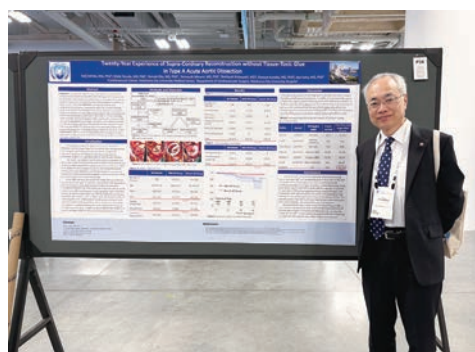
今後も患者さんに安心してご来院いただけるよう取り組んで参ります。

医事課長 山元 智和（やまもと・ともかず）



関連学会への参加

若手外科医師（心臓血管センター）育成のため、複数の医師の関連学会参加に係る費用について寄附金を活用させていただきました。



○ 医師からの御礼のメッセージ

この度はご寄附をいただきまして誠にありがとうございました。当センターでは多くの患者さんに対する治療結果を研究し、国際学会にその成果を発表しております。この機会に若手医師を帯同し世界最高峰の学会を経験させることは、次世代の心臓血管外科医育成のため、とても有意義で重要です。

昨年度は、若手医師の日本心臓血管外科学会への参加に関する費用をご寄附いただいた中から活用させていただきました。

心臓血管センター部長 内田 敬二（うちだ・けいじ）

遺贈を活用した研究プロジェクト「がん・ハートプロジェクト」

がん・ハートプロジェクトは、附属市民総合医療センターの患者さんからいただいた遺贈をもとに令和4年度からスタートしました。「がん及び心疾患の研究に寄与するために」というご遺志を踏まえ、「がん・ハートプロジェクト」として名づけ、院内の先生方から関連する研究課題を公募して支援し、研究の発展に寄与することを目指しています。

主な研究課題

- がん疾患（消化器系）
- がん疾患（婦人科系・生殖医療）
- 心疾患

学術情報センター（図書館）

横浜市立大学には幅広い分野の資料を集めた学術情報センター（金沢八景キャンパス）と、医学系の資料に特化した医学情報センター（福浦キャンパス）のほか、各拠点に3つの図書室があります。約90万冊の蔵書と学修スペースは、学生・教職員に限らず広く一般の方にも利活用されており、地域の情報拠点となっています。



● 電子ジャーナル価格高騰への対応

昨今の円安の影響等により価格が高騰しており、特に電子ジャーナル等の学術雑誌の価格は1990年から2020年までの30年間で1誌当たり約10倍になるなど、大学図書館を取り巻く状況は、厳しさを増しています。

こうした状況を踏まえ、学術情報センターでは、学術情報センター支援に特化した寄附の募集を行ったところ、多くの皆様からの温かいご支援をいただき、電子ジャーナル等の購入費用に充当することができました。

● 記念品について

ご寄附いただいた方に、学術情報センター利用の優遇制度や記念品といった特典をご用意し、大変ご好評をいただきました。2024年度にエコバックのデザインを更新しており、今後により多くの方にご関心いただけるよう、特典内容の見直しを予定しております。

記念品（例）



オリジナルエコバック



ブックカバー（上）／図録（下）

● YCU古本募金も学術情報センターに活用しています

横浜市立大学では読み終わった本やDVD、CD、ゲームソフトの買取額334,466円（2024年度総額）を全額横浜市立大学図書館の支援に役立てています。今年度も多くの皆様のご支援により電子ジャーナル購入に活用しました。

ありがとう
ございました。



顕彰制度

横浜市立大学をご支援くださる皆さまとのつながりを大切にするため、また、多くの皆さまによって本学が支えられていることを広く知っていただくため、累計寄附金額を基準とした顕彰制度を設けています。また、横浜市立大学基金へ一定額以上のご寄附をいただいた個人・法人・団体の皆様をお招きして「感謝の集い」を開催しております。

○ 寄附者銘板

寄附累計額が10万円以上の個人、30万円以上の法人・団体の皆さまにつきましては、寄附者銘板にご芳名を記し、末永く顕彰させていただきます。

称 号	個 人	法人・団体	色・サイズ
特別栄誉会員	5000万円以上	1億円以上	● ゴールド
栄誉会員	1000万円以上	5000万円以上	● ゴールド
特別功績会員	500万円以上	1000万円以上	● シルバー
功績会員	100万円以上	500万円以上	● ブロンズ
特別貢献会員	30万円以上	100万円以上	● ブロンズ
貢献会員	10万円以上	30万円以上	● ブロンズ



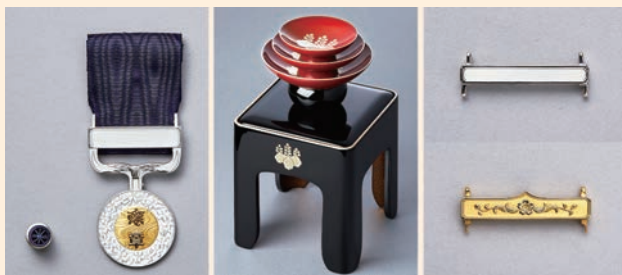
金沢八景キャンパス市大交流プラザ（いちようの館）に設置しています。

○ 寄附者芳名録

寄附者の皆さまに感謝の気持ちを込めて、本学Webサイトにご芳名を掲載させていただきます。なお、匿名を希望された場合は掲載しておりません。

紺綬褒章

紺綬褒章は国の褒章制度のひとつで、公益のために、私財（個人は500万円以上、法人等は1,000万円以上）を寄附した方に授与されます。また、予めお申し出いただいた分納によるご寄附も含まれます。その際は、完納時点での申請となります。本学は、内閣府賞勲局より、公益のために私財をご寄附された方に授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けており、寄附者様のご意向を確認のうえ、本学から文部科学省に申請（その後文部科学省を経て内閣府へ提出）いたします。



出典：内閣府ホームページ

www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juyotaisho-hosho.html

○ 個人での受章

個人で公益のために500万円以上寄附した方には下記のとりの授与基準により、褒章（メダル）、章記、木杯が授与されます。

ご寄附の金額	授与されるもの
500万円以上	紺綬褒章、章記
1,500万円以上2,500万円未満	紺綬褒章、章記、木杯第五号
2,500万円以上5,000万円未満	紺綬褒章、章記、木杯第六号
5,000万円以上	紺綬褒章、章記、木杯第七号

○ 法人等での受章

ご寄附の金額	授与されるもの
1,000万円以上	紺綬褒章に係る褒状



遺贈による寄附のご案内 ～ 生きた証を後世に残す ～

人生の集大成として、これまで築いてきた思いとともに財産の一部を後世に託したいという方が増えています。

横浜市立大学では生きた証を後世に残すという大切なご遺志を受け継ぎ、それを実現するため金融機関と提携し「遺贈による寄附」の制度を設けています。

未来を切り拓く横浜市立大学の教育・研究・医療活動の一層の発展のため、何卒ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



遺贈による ご寄附の流れ

1 事前のご相談

横浜市立大学へ遺贈によるご寄附をお考えの方は、まずはお電話（基金担当045-787-2447）でご相談ください。

2 遺言書の作成

遺言書の作成については、信頼できる機関や専門家にご相談されることをお勧めします。ご希望がございましたら、本学にて専門機関をご紹介します。

3 遺言書の保管・管理

遺言書の保管は、ご自宅又は遺言執行者を指定している場合は、その方に遺言書を預ける方もいらっしゃいます。

4 遺言の執行

遺言者のご逝去の知らせを受けた身近な方、あるいは通知人から遺言執行者へ連絡をします。

5 本学への寄附

ご意志にしたがい、教育研究医療活動や施設整備などに大切に活用させていただきます。

- 遺贈とは、遺言書を作成し、遺産を特定の人・団体に贈る（寄附する）ことです。
- 本学への遺贈した財産は相続税の非課税財産になります。
- 現物資産（有価証券、土地、建物など）によるご寄付の場合、みなし譲渡所得税について非課税となります。

TOPICS & INFORMATION



かもめプロジェクト

2024年11月16日（土）に福浦キャンパスで開催されたメディカルフェスティバル（医学部祭）で、「かもめプロジェクト報告会」を開催し、横浜市立大学での先進的な研究の一端を多くの来場者にご覧いただくことができました。

「かもめプロジェクト」は、100周年記念事業の一環として、附属病院の患者さんからの遺贈をもとに2018年にスタートした医学研究プロジェクトです。「医療の研究・発展に寄与するために」というご遺志を受け、6つの先進的な医学研究プロジェクトを進めてきました。いずれも現在の医療では治療が難しい疾患であり、一日も早い治療法の確立が望まれるものです。その研究成果や今後の発展等について、各研究プロジェクト代表者等が発表しました。



かもめプロジェクト報告会の様子

寄附のしかた

1 本学指定の払込取扱票によるお申込み

本学所定の振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの金融機関よりお振込みください。

振込用紙をお持ちでない方は、郵送させていただきますので、お手数ですが基金担当までご連絡ください。

※その他、現金以外の有価証券、不動産等のご寄附についてもご相談を承ります。

横浜市立大学基金担当

045-787-2447

Mail: kifu@yokohama-cu.ac.jp

Web: www.yokohama-cu.ac.jp/giving/kifu/

2 Webサイトからのお申込み

横浜市立大学基金Webサイトから下記の方法でお申込みいただけます。

- クレジットカード決済
- PayPay決済
- インターネットバンキング決済
- コンビニ決済

※継続寄附（毎月・年2回・毎年）もお選びいただけます。

横浜市立大学基金Webサイト

横浜市立大学基金

検索

<https://fundexapp.jp/ycu/exp/explanation.htm>



税制上の優遇措置

個人の場合

横浜市立大学へのご寄附には税法上の優遇措置が適用されます。後日お送りする寄附金領収書を控除証明書として確定申告書に添付し、所轄税務署へご提出ください。

1 所得税

所得控除

寄附金額から2,000円を引いた額を当該年の所得金額から控除できます。

税額控除（YCU修学支援基金、YCU研究支援基金のみ対象）※

寄附金額から2,000円引いた額に40%を乗じた額を、所得税額から控除できます。税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方にとって所得控除と比較して減税効果が大きくなります。

※確定申告の際に「所得控除」と「税額控除」のいずれか一方の有利な制度をお選びいただけます。

2 住民税

寄附をした翌年1月1日時点で神奈川県または横浜市にお住まいの方は、寄附の翌年の個人住民税の控除を受けることができます。

$$\text{住民税控除額} = (\text{寄附金額}^{\text{※1}} - 2,000\text{円}) \times \text{控除率}^{\text{※2}}$$

※1 その年の総所得金額等の30%が上限

※2 横浜市以外の神奈川県市町村にお住まいの方は2%または4%、横浜市にお住まいの方は10%です。

税制上の優遇について
詳しくはこちら



法人の場合

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

法人からのご寄附について

会社等法人からのご寄附については「法人用寄附申込書」をお送りいたしますので、お手数ですが基金担当までご連絡願います。

優遇措置を受ける手続き

- 確定申告の際に、本学が発行する「寄附金領収書」を添えて税務署に申告してください。（住民税の寄附金控除のみを受ける場合は、市区町村に申告してください。）
- 「寄附金領収書」は、入金方法により到着までに10日から3週間程度かかる場合がございますので、ご容赦ください。



横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

ご寄附に関するお問い合わせ先

横浜市立大学 卒業生・基金担当

045-787-2447

Mail: kifu@yokohama-cu.ac.jp

Web: www.yokohama-cu.ac.jp/giving/kifu/

